43rd Meeting of the German Colloid Society に参加して

Report of the 43rd Meeting of the German Colloid Society

藤井 秀司

Syuji Fujii

43rd Meeting of the German Colloid Society が 2007 年 10 月 8 日から 10 月 10 日にかけて、ドイツはマインツにある Sparkassenakademie Schloß Waldthausen で開催されました。その学会の概要について報告させていただきます。ドイツにおけるコロイドおよび表面化学部会は 1922 年 Leipzig にて発足し、物理化学の研究分野の一つとして発展してきました。その後、様々な工業分野での急速な応用研究が進む中で、現在ではコロイド科学が独立した研究分野となり、the German Colloid Society として独立して活動が行われるようになったようです。コロイド科学に関わるすべての自然科学者が、the German Colloid Society の会員として招待されており、実際、コロイド科学に加えて、高分子化学、無機化学、物理化学、計算科学を学術基盤として研究を進めている研究者たちが所属しておられるようです。今回のミーティングの運営委員も H. J. Butt 先生、D. Vollmer 先生、H. Möhwald 先生、J. Venzmer 先生、H. Rehage 先生が務められ、ミーティングに様々なバックグラウンドをお持ちの研究者の方々が参加されておられることが容易に想像できます。また、ミーティングの名称からも推測できるとおり、ドイツの研究者が大多数で、その他、オランダ、フランス、スイス、ブラジル、アイルランド、カナダ、スウェーデン、アメリカそして日本からの参加がありました。この会議は 2 年に一回行われているそうです。

今回のミーティングは、3rd Zsigmondy Colloquium of the German Colloid Society と同時開催で、表面と界面の関連する基礎、応用研究について、3 件の受賞講演、50 件の口頭発表、70 件のポスター

表 1 受賞講演の一覧

Prof. Martien Cohen-Stuart (Wageningen University) Supramolecular perspectives in colloid science
Prof. Elmar Bonaccorso (Max Planck Institute for Polymer Research) Evaporating microdrops
Prof. Monika Schönhoff (University of Münster) Dynamics of probe molecules in polyelectrolyte capsule dispersions

発表が行われました。3 件の受賞講演の内容を表 1 に示します。ポスター発表は (1) Interfacial forces, (2) Surface Structuring, (3) Nanoparticles : Synthesis, (4) Nanoparticles : Physical properties, (5) Particles : Synthesis, (6) Particles : Physical properties, (7) Amphiphils, (8) Polyelectrolytes と 8 つのセッションに分かれていました。ポスター発表、口頭発表はそれぞれ 2 ヶ所の会場で行われ、大きすぎることなく、小さすぎることのない大きさ、参加者数のミーティングでした。発表の内容も、基礎研究はさることながら、応用研究においても、明確な学術基盤を持ちながら研究が進められ、考察の裏づけがしっかりと押さえられたものが多く、精密な測定がなされている印象を受けました。成果を短期間で上げることが望まれる風潮の中で、落ち着いてじっくりとサイエンスすることを大切にドイツにおけるコロイド科学の底力を感じさせられました。

マインツは、フランクフルト空港から電車で約 40 分の距離にあり、グーテンベルグが活版印刷を 1455 年に発明した場所として有名です。会議が行われた Schloß Waldthausen (写真 1) は、電車のマインツ駅からさらにバスで約 40 分の距離にあるセミナー・宿泊施設で、自然が豊かであり、すぐにハイキングを楽しむことのできる場所でした。ただ、会場がマインツ市内から少し離れた場所にあることが関係し

大阪工業大学 工学部 応用化学科
(535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1) TEL 06-6954-4274
Osaka Institute of Technology, Department of Applied
Chemistry
(5-16-1 Ohmiya, Asahi-ku, Osaka 535-8585, Japan)

写真1 ミーティングが行われた会場
(Schloß Waldthausen)

ているのか、英語があまり通じない印象を持ちました。日本からは、兵庫県立大学の飯村健次先生、産業技術総合研究所の石田尚之先生、京都大学の新戸浩幸先生、小生の4名の参加であり、皆それぞれ、異なるルートで会場入りしたため、会場で全員がそろった時は、その道程での苦労話にも花が咲きました。

大半の参加者が会場横の宿泊施設に宿泊し、同じ食堂で食事をしていたことも手伝い、多数の学会参加者と非常に親密に話をすることが可能でした。“同じ釜の飯を食う”ことは、万国共通で人間が親密になる上で大切なことであるとも感じました。10月9日の晩

写真2 会場前での音楽演奏

餐では、民族楽器を使用した演奏が行われ、(写真2)会場は和やかな雰囲気に包まれました。海外での学会で、その国、地方の文化に触れ、もてなしを受けると嬉しく感じ、日本で開催される学会に参加される海外からの研究者の方々に対しても気が抜けないと感じました。

今回のミーティングで報告された研究内容から、Progress in Colloid and Polymer Science 誌(Springer)の特別号(題目“Surface and Iterfacial Forces – From Fundamentals to Applications”;編集者Dr. Günter K. Auernhammer)が組まれる予定であることを最後にご報告します。